広島大学大学院人間社会科学研究科紀要「教育学研究」第３号　2022　9－17

中学校家庭科のケアリング教育における支援方法の検討

―「生活の課題解決プロジェクト」を通して ―

藤井　志保・伊藤　圭子
（2022年10月７日受理）

Support methods in “caring education” for home economics in junior high schools
― A project for “solving lifestyle issues” ―

Shiho Fujii and Keiko Ito

Abstract: This study aimed to examine support methods that teachers can provide when practicing caring education for home economics in junior high schools.
A teacher planned and executed a project in which a student solved a life problem. The goal was to understand how students perform care before they learn care education. At the time, the actual condition of the method the student used to solve the life problem (the method of care) for the care recipient (the object of care) was investigated. Then, the situation was analyzed from the viewpoint of the six aspects of care and the four learning methods for imparting care as advocated by Noddings. Consequently, the teacher had to use the following learning method to inculcate the concept of care in the students in the home economics class. The support method guided the practice of care, incorporated dialogue between the students, and emphasized the confirmatory aspect.

Key words: home economics in junior high schools, Caring education, Problem-Solving
キーワード：中学校家庭科，ケアリング教育，課題解決

１．問題の所在と研究の目的

予測困難な現代社会においては，解決すべき問題が山積している。広井（2020）は，現在の日本社会の様々な問題の根底に社会的孤立度の高さがあると警鐘を鳴らしている。さらに，広井（1997）は，これからの未知の時代を迎えていくにあたって，ケアが「もっとも重要な導きの糸になるのではないか」と考え，「ケアということの意味を正面から考え明らかにしていくこと」が教育の分野においても「その日常に新たな力を吹き込むよりどころともなりうるだろう」とケアの重要性を提起している。

ノディングズ（1997）は「あらゆる教育的努力の第一目標は，ケアリングの維持，向上でなければならない。」と教育の根底におけるケアリングの必要性を強調している。ケアリングは，人と人との関わりにおいて，対等で応答的な関係性のことであり，佐伯（2017）はケアした人がケアされた人からケアされることもあり，その関係性が入れ替わることも想定できると述べている。このように，人は他者と共に関わり合いながら生活している。この考え方は，自立と共生をめざす家庭科教育の根幹となる考え方である。よって，人とのつながりを基盤として，家庭科をケアリングの観点で捉えなおすことは意義があると考えられる。家庭科は，自分の生活と結びつけながら経験的にケアを感じ，それを実践し，ケアリングを意識化することができる教科であるといえる。なお本稿では，ケアリングを「自分をかけがえのない存在としてケアし，他者を尊重し，

他者からの働きかけに応答し，互いに認め合う者同士の結びつき」，ケアを媒介とする関係性を育む教育をケアリング教育と捉える。

家庭科においてケアリングに焦点をあてた先行研究をみると，貴志（2007）は，ノディングズのケアの枠組みに照らして，家庭科における学習テーマを検討しているが，高等学校家庭科での実践を分析しており，中学校家庭科も視野に入れた授業プログラムの必要性を指摘している。また，伊藤・鎌野（2009）は，家庭科における幼児とのふれあい体験での中学生の学びをケアリング教育の観点から考察している。しかし，設定事例を基に検討することにとどまっているため，理解は可能になっても，自身の生活に編み直して習得することが可能か危惧される。

一方，ノディングス（1997）はケアリングを育成する４つの学習方法として，＜モデリング＞(modeling)，＜対話＞（dialogue），＜実践＞（practice），＜確証＞confirmation）を提唱している[1)]。藤井・伊藤（2022）は，この４つの学習方法を中学生と高齢者との交流における家庭科授業に適用した授業モデルの効果を検証している。しかしながら，子どもはそれぞれの生活の中で，家族，地域の人々や，様々な状況にある人とかかわりあいながら，互いにケアし，ケアされながら生きているため，授業前に獲得している各生徒のケアリングの経験は異なる。

福田（2004）は，家庭科において「生活実践に働く知識や思考および価値観や技能などを，子ども自身が認識し，科学的に吟味して，他者への倫理的配慮と共に，自分の状況を判断した未来志向的な生活実践が必要」であると述べているが，この「他者への倫理的な配慮」は，自分のみならず家族をはじめとする自分以外の他者の立場になって考えようとするケアと捉えられる。授業前の子どもたちのケアリング経験によって，「他者への倫理的な配慮」の在り方も異なるのではないだろうか。家庭科授業においては，ケアリング経験が異なる子どもたちに応じた支援方法を検討する必要があると考える。

そこで本研究は，中学生期の生徒のケアリングの実状を把握することによって，ケアリング教育を適用した家庭科授業における支援方法について示唆を得ることを目的とする。

２．ノディングズのケアリング理論

2.1　ケアリングの６つの領域

ノディングズ（1997）は，ケアリングにおける個人と他者との関係性について，「私たちは，自分がケアリングの同心円（concentric circles）の中心にいるのを見出せる。」とし，「親密なものから希薄なものに至るまでの同心円」の中心に，個人を据えて考えている。そして，ケアリングの６つの領域，すなわち，自己へのケアリング，身近な人へのケアリング，見知らぬ者や遠い他者へのケアリング，動物，植物，地球へのケアリング，人工的世界へのケアリング，理念へのケアリングを示している。

2.2　ケアリングの４つの学習方法

ノディングズのケアリング論の特徴は，人と人との相互のつながりであるケアリング関係を構築することを教育の根底に据え，ケアリングを育成する４つの学習方法を次のように提案している。

ノディングス(1997)によると，＜モデリング＞は「ケアリングの関係に引き入れ，ケアしケアされる喜びを子どもと共有する」，＜対話＞は「語り合い，傾聴し合い，分かち合い，応答し合う営み」，＜実践＞は「ケアリングの成立を目指す努力を分かち合う機会」，＜確証＞は「共感や思いやりのある感知が，鼓舞され，高められ，最終的に反省と関与を伴って奨励される」ことである。

３．授業実践

3.1　対象者と授業者

対象はＭ中学校３学年76名である。授業者はＭ中学校の家庭科教員であった。

3.2　授業実践の概要

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から，2021年３月２日～５月30日の期間に学校が休校となった。この間に家庭科授業の一環として，生活の課題に向き合い，家庭科の学びを生かして解決する「生活の課題解決プロジェクト」を企画し，実践した。これは，生徒がこのプロジェクトを通した生活課題の解決をケア行為と捉え，生徒が誰のために，どのように解決するかを分析することによって，生徒既有のケアの対象や方法を把握できるのではないかと考えられる。なお，中学校家庭科における「生活の課題と実践」として設定した。本授業計画は表１に示す通りである。休校開始直後の３月初旬に，目的や方法等を説明した冊子である「生活の課題解決プロジェクト」を作成し，生徒宅へ郵送した。その冊子の内容は，①「生活の課題解決プロジェクト」の目的，②自分の生活を見つめ直すチェック項目（教科書に沿い，子どもたちが自分の生活＜家族，衣食住，消費生活，環境の分野別＞によっ

て振り返る内容），③生活課題解決への取り組みの流れ（課題発見→課題解決の方法考案→実施計画立案→実施→評価），④生活課題解決事例の紹介，⑤「生活の課題解決プロジェクト」実践の記入用紙であった。

休校期間中の４月初旬に分散登校があったため，１時間の家庭科の授業を実施し，「生活の課題解決プロジェクト」（以下，本プロジェクト）の目的や方法を確認した。休校期間終了後の６月初旬に本プロジェクトのレポートを提出させた（提出者76名）。そして，６月中旬の家庭科の授業で，再度，本プロジェクトに取り組んだ意義を確認し，生徒は各班（４人）で各自のプロジェクトを発表し，生徒間で意見交流した。その後，全体で特徴的事例を共有し，各生徒で振り返りを行った。

表１　生活の課題解決プロジェクトの授業計画

実施時期	取り組みの内容（休校期間：3月2日~5月30日）
2020.3月初旬	「生活の課題解決プロジェクト」冊子を生徒の家庭に郵送
2020.4月初旬	「生活の課題解決プロジェクト」の目的と取り組み方法についての家庭科授業を実施（分散登校）
2020.6月初旬	休校開けに「生活の課題解決プロジェクト」のレポートを提出
2020.6月中旬	家庭科授業で生徒が実施したプロジェクトの発表および意見交流・振り返り
	調査実施（表3、表4、表5参照）

3.3　データ収集と分析方法

3.3.1　調査時期と対象者

本調査は2020年６月中旬であり，対象者は本プロジェクトのレポートを提出した76名であった。

3.3.2　調査内容

本プロジェクトの発表・交流した後の振り返り時に，以下の内容①～⑤を質問紙法により自由記述で尋ねた。具体的には，①『取り組む課題を考えた時に「誰のため」に「どんな内容」が思い浮かびましたか。「誰のため」と「その内容」を，すべて書き出して下さい。』(表２参照)，②『①で思い浮かんだ課題の中で，実際に実行したものはどの課題ですか。』(表３参照)，③『課題を実践しようとして解決方法を考える際にヒントになったことは何ですか。』（表４参照），④『設定した課題の解決方法を実行する際に役に立ったことは何ですか。』（表４参照），⑤『仲間の実践から学んだことは何ですか。自分の実践にはなかったことで，仲間の実践にあったと思うことなどを中心に振り返って下さい。』（表５参照）であった。

４．結果と考察

4.1　生活課題設定前に想起した対象者とその内容

生活課題設定前に想起した対象者及びその実践内容を問うた結果を表２に示す。この表から，「誰のために」生活課題解決を実行しようと考えたか，つまり，生活課題解決の対象者をみると，最も多いのは家族123名（161.8％）であり，家族を対象とした生活課題を複数記述した生徒がみられた。家族のために実践しようと考えた内容は，衣食住生活全体に及び，「親が疲れているので」「弟がアレルギーなので」「足腰の悪い祖母のため」など，家族の困り感を解決したいという思いや，少しでも生活の課題を解決しようと家族に配慮した記述が多くみられた。次いで自分のためが78件（102.6%）であり，その内容は，自分の学習材が整理整頓できてないことを改善したいという記述が23件と多かった。次いで，小物や衣類など身の周りを快適にしたいという内容であった。中には，「将来の自立のために」や「家庭科の調理実習で料理がうまく作れなかった」というこれからの自分の生活を視野においたうえで，生活の課題解決能力を身につけたいという思いを記述した生徒がみられた。

これらをノディングズ（1997）による６つのケアリングの領域別にみると，多くの生徒が，自分のみならず身近な家族を想起して生活課題に取り組みたいと考えていた。その内容は，エアコンのほこり，ドアノブ，洗面台のカビ，コードに引っかかること，庭の雑草など，細部にわたっており，①自己や②家族の生活を見直すことに繋がる記述であった。また，④動物・植物・地球へのケアリングが14.5％であり，ペットや，環境に配慮した内容がみられた。さらに，③見知らぬ者や遠い他者へのケアリングを考えた生徒が6.6％みられ，マスク作りをして市役所へ届けたい，地域の為に掃除をしたいというものであった。本プロジェクトを通して，ケアの対象を自分自身のことにとどまらず，家族や地域へも目を向けている生徒もいることが理解された。

表２　生活課題設定時に想起した対象者とその内容（複数回答）N=76

誰のために	分野(件数)	思いついた課題例（件数）	その内容（記述例）	件数（%）	6つのケアリングの領域
自分	住生活(53)	学習材の整理(机の上など)（23)	・要らないプリントを捨ててすっきりさせる・自分の机は物置状態で勉強に集中できてない・机に物が散らかっていて気になるから，収納できる箱に入れて机の後ろに置いた・勉強，趣味などやる事が多い机をきれいにし集中することができる机にしたい 等	78 (102.6)	①自己へのケアリング
		住まい全体を快適に(18)	・新しい部屋になったので，快適に過ごせるようにしたかったから・花粉やほこりが無理なので掃除・将来の夢に向けて役に立つから・物が散らかっていたから百均で網を買って壁につけた・ほこりがたまっているため，エアコンのほこりをとる　等		
		小物や本の整理（12）	・ヘアドレッサーを整理することで，快適に過ごせるようにする・ソファや机においてあるものを片付ける・ベッドの上に物が散乱していて，とても寝られるような環境ではなかったから片付けた・受験期に入るので本・グッズを整理し部屋の配置を変える　等		
	衣生活(12)	衣類の整理(9)	・衣替えがすごく微妙で冬・夏服が混ざり，服が散らかり片づけたいと思ったから・服を入れる棚が散らかっていて服が出しづらいのでいらないものは捨てて整頓する・タンスに入っている靴下が多くて，取り出しにくいから要らないものは捨てる　等		
		布製品作り(3)	・余り布でブックカバーをつくる・マスク袋を作る・古着でポーチ作り		
	食生活(6)	食生活の充実(6)	・野菜などの苦手な食べ物の克服のためおやつ作り・家庭科の調理実習で料理をうまくできなかったのでやった・生活リズムが乱れているから朝食をつくればいいと思った　等		
	生活習慣(3)	生活リズムの改善(３)	・ゲーム時間が多すぎるので，時間配分をしっかりするといいと思った・朝同じ時間に起きて規則正しくしたい　等		
	家事全般(2)	家事の知識の獲得と自立(2)	・少しでも家事の知識を蓄えておきたい　将来の自立のために　等		
	その他（２）	スマホの管理(1)	・スマホの画面をきれいに保つと毎日困らず使えるし動きがよくなる		
		照明の調整(1)	・照明の明るさによって勉強の質が変わってくると思ったから，照明を変えた		
家族	住生活(54)	住まい全体を快適に(16)	・赤ちゃんが過ごしやすい部屋に変えようと思った・家全体の掃除をして空気をきれいにしたい・帰ってきてかばんをリビングにおいて家族の邪魔だと思うので部屋にスペースをつくる・急な来客があっても大丈夫なように玄関やリビングを掃除する・増築の部屋を今独り占めしている状態なので皆が使えるようにするため　等	123 (161.8)	②身近な人へのケアリング
		庭の掃除(9)	・草抜きは大変で，ぼうぼうになってきたので力仕事だしやろうと思った・庭にある草が生えると大変だから草取りを手伝う　等		
		小物などの整理（7）	・共用の文具入れが汚くなっていたから使いやすくした・ドライヤーやヘアアイロンの入っている引き出しを整理すると取り出しやすくなる　等		
		洗面台・風呂の掃除(6)	・いつもお風呂掃除をしてもらっていたから代わりにしたい・お風呂のシャンプー・リンスの位置を考えるともっと取りやすい位置になる・洗面台を風呂を洗う（毎日）カビなどが生えるので・いつも風呂掃除をしてくれているので自分がすればいいと思った　等		
		窓やベランダの掃除(4)	・自分の部屋に2階のベランダがあり洗濯物を干すのに散らかっていると邪魔だから・窓やベランダが汚くて腹が立ったのできれいにした　等		
		不便な場所の修理改善(4)	・ドアが開きにくいのでろうをぬった　専用の器具の設置・脱衣所の水道の所を直す・照明に消えかけていたところがあって非常に危ないと思ったから，照明を変えた　等		
		家庭内事故防止(6)	・よくこける（コードに引っかかって）・階段が木製で滑りやすく防滑用のものに　等		
		車の掃除(1)	・車の中を掃除していなかったので掃除しようと思った		
		ごみ捨ての実行(1)	・朝弁当作りや弟の面倒を見るのに忙しい母のためにゴミ捨てをしてあげたい		
	食生活(28)	食事作りなど(28)	・1週間自分がご飯を作って休んでもらう・献立から料理をつくるところまでして，母の力になればと思った・献立を立てて1食分料理を作る・朝食・夕食をいつも作ってくれているので少しずつでも手伝えるといいと思った・朝食は自分たちで用意するが、昼食、夕食は母に任せきりだったから料理を作る・母が疲れていたから，カレーを作った・今の自分の技能では栄養面を考えて作ることができないから・仕事などで忙しいから，食器を洗って負担を減らす・食器を置くスペースが狭くて僕も母もイライラしており広くしたかったから・取りにくかったのできれいにして取りやすいようにした（冷蔵庫）　等		
	衣生活(12)	洗濯物の扱い(６)	・親が疲れているときに，洗濯物をたたむ速度を早くするコツをつかむ・いつも洗濯物を取り込んで置いたままで結果的にぐちゃぐちゃになってしまうから・洗濯物の効率のよい干し方は何か・父の寝具をきれいにしてあげたかった　等		
		布製品作り(3)	・エコバッグが1，2個しかないので，ミシンで縫ってみる・タオルを雑巾に　等		
		衣類の整理(1)	・使いづらいから，タンスの上の服を整理する		
		靴の整理(２)	・くつ箱をきれいにし，出したい靴を出せるようにしたいと思ったから　等		
	家事全般(12)	家事全体への取り組み(12)	・洗い物など家事全般をやった・家に人が増えるからみんなの負担を減らせればと思った・いつも家の掃除をしてくれているから代わりに自分が掃除する・掃除や手伝いなど何か役に立つことをしたかった・家事をして，大変そうな母を助けたいと思ったから　等		
	コロナ対策(8)	コロナ対策(８)	・ドアノブやスイッチを拭いて回った（コロナ対策）・マスクが不足しているので，作ったらいいと思った・コロナ対策でゴミ箱をふたなしからあるのに変えたかった　等		
	防災(3)	地震対策(3)	・家の耐震対策が全くできていないため対策をする・避難経路を探す　等		
	家族の健康(4)	ゲームと生活改善、健康管理(４)	・弟がゲームばかりして宿題をせず怒られているので時間割を作ればいいと思った・祖母が70歳になっても一度も健康診断に行っていないから心配で調べた・笑顔が増える空気を作る　等		
	ペット対策(2)	犬猫の毛の掃除(2)	・一日で山積みになっている犬の毛の掃除・猫の毛が家族の洗濯物につかないように		
家族以外他者	住生活(1)	住まい全体を快適に(1)	・部屋が散らかっていて汚いので，来た人に長居してもらえる部屋を作りたい	5 (6.6)	③見知らぬものや遠い他者へのケアリング
	コロナ対策(1)	マスク作り(1)	・マスクが減っている中，市役所に手作りマスクを送るため		
	防災(1)	バリアフリー，災害への対策(1)	・バリアフリーの施設，避難場所や防災対策が各駅によってどうなのか調べる		
	地域の環境(1)	環境整備(1)	・砂浜にごみが捨てられている時は進んで拾う		
	食生活(1)	アレルギー対応(1)	・アレルギーがある人でも食べられる料理を考える		
環境	食生活（２）	生ごみの再利用・エコクッキング(２)	・生ごみを再利用するためにコンポストを作成・エコクッキングをする	11 (14.5)	④動物植物地球へのケアリング
ペット	ペットのこと(9)	犬や猫などの為(９)	・肌がとても弱くて毛が多いので，洗う時に使えるように用意した・きれいな庭じゃないので，思いっきり遊べる庭を作りたい・犬の散歩・犬が滑っていたからコルクマットを敷いた・夜寝るとき安心するようにカバーを作ろうとした・金魚の水槽を清潔に　等		
TVゲーム	ゲームに関して(1)	テレビの掃除(1)	・TVが汚くて，そこに映るゲームのキャラクターがかわいそうだから	1 (1.3)	⑤人工的なものへのケアリング

4.2　本プロジェクトで実践した内容

実際に本プロジェクトで生徒が生活課題解決を実践した内容の分類結果を表３に示す。

この表から住生活に関する内容が74例（97.4%）と最も多く，その中には災害への備えに取り組んだ生徒もいた。次に，食生活に関する内容が29例（38.2%），衣生活に関する仕事は14例（18.4%）であり，コロナ禍に対応するマスク作りもみられた。

表３　生活課題解決した実践内容（複数回答）N=76

分野	課題と捉えて実践した内容	件数（%）
住生活に関する仕事	自分の机の周りの整理整頓・部屋の掃除・風呂掃除・靴の片付け・危険個所の改善・トイレ掃除・庭の草取り・換気方法の考案・地震や津波・土砂災害に対する備えなどの話し合い等	74 (97.4)
食生活に関する仕事	栄養バランスを考えた食事作り・おやつ作り・エコクッキング・冷蔵庫の食材の整理と掃除・アレルギー対応食作り等	29 (38.2)
衣生活に関する仕事	マスク作り・洗濯の方法（干し方・たたみ方）の工夫・衣服のリフォーム・収納の工夫と改善等	14 (18.4)
衣食住に関わる家事全体	家事全体の手伝い等	6 (7.9)
家族のための仕事	家族の健康診断についての見直し・運動不足解消について等	5 (6.6)

4.3　生活課題解決の実践方法

表４に生活課題解決の解決方法にヒントになったこと・役に立ったことを示す。これらの記述内容を分類すると，「家族の生活行動や助言など」「家庭科の授業で学んだこと」「インターネットやテレビからの情報」「自分自身のこれまでの生活経験」「状況を見ながら自身で考えた解決方法」「家庭科以外の教科で学んだこと」「文献や資料などから調べた情報」「その他」の８つに大別された。この表の左側の＜ヒントになったこと＞は，生活課題設定前にその解決方法の探求に参考としたリソースであり，右側の＜役立ったこと＞は生活課題設定後にその課題の実行計画を立案する際に有益であったリソースに関する記述である。この表から＜ヒントになったこと＞は，「家族の生活行動や助言など」（26.1%），「インターネットやテレビからの情報」（23.9%），「状況を見ながら自身で考えた解決方法」（16.3%），「自分自身のこれまでの生活経験」（14.1%）の順に多かった。「家庭科の授業で学んだこと」（13.0%），「家庭科以外の教科で学んだこと」（3.3%）を合わせると，学校での学びは16.3%であった。

一方，役に立ったことで最も多かったのは「家庭科の授業での学び」（25.0%）であり，「家庭科以外の他教科の学び」（9.4%）を合わせると，学校の授業の学びは34.4%となった。これは「家族の生活行動や助言など」24.0%よりも多かった。次いで，「自分自身のこれまでの生活経験」（15.6%），「状況を見ながら自身で考えた解決方法」（13.5%），「インターネットやテレビからの情報」（10.4%）であった。

これらの生徒が実施した方法をノディングズ（1997）によるケアリングの４つの学習方法の観点から検討する。表中の太字は４つの学習方法のうち＜モデリング＞とみられる内容を示している。＜モデリング＞は生徒によって日常生活さらには家庭科授業において行われており，それを生徒たちは意識的または無意識的に学び，ケアリングのモデルにしていることが推察される。例えば，生活の中で無意識のうちに，家族などの生活行動がモデルとなっている記述，生徒自身が意図的にインターネットなどでモデルを見つけている記述，また教師や家族が意図的にモデルを示している記述などがみられた。

表５からさらに３つの特徴が示唆された。一つ目は，「ヒントになったこと」「役に立ったこと」ともに，「家族の生活行動や助言」が多く挙げられていたことから，家族の言動を＜モデリング＞し，家族との＜対話＞によって生活課題を解決した生徒が多いことが分かった。例えば，「母が作っている様子を思い出しながら作った」「家族で集まって話し合って合意して始めた」などの記述がみられた。

二つ目は，「インターネットなどからの情報」は＜ヒントになったこと＞では23.9%の記述がみられたが，実際に「役立ったこと」では10.4%に減少していた。これは，インターネットによって＜モデリング＞は可能であっても，一方向の関わりであり＜対話＞は困難であることが一因になっているのではないかと推察される。つまり，＜モデリング＞に加えて，家族との関わりなどの＜対話＞が生活課題の解決方法を決定する要因になっていたと考えられる。

三つめは，「家庭科の授業で学んだこと」は，ヒントになったことで13.0%であったが，役立ったことでは25.0%と多くなっていた。役立ったことでの記述内容を見ると，実体験を伴う調理実習や衣服実習での教師の師範，また介護福祉士を招いて高齢者疑似体験をした時のことが記述されており，＜モデリング＞の機会になったと捉えられる。このような家庭科の体験的な学びを多くの生徒が，実際に活用し＜実践＞していた。

4.4　本プロジェクトに関する生徒間での交流後の振り返り

授業において，教師は生徒が実施した本プロジェクトの課題一覧を提示し，その中から数事例を紹介した。その後，各班で提出したレポートをもとに，「誰

表４　生活課題解決の解決方法において「ヒントになったこと」「役立ったこと」（複数回答）N=76

主な内容	ヒントになったことの記述例(件数)		件数(%)	役に立ったことの記述例(件数)		件数(%)
家族の生活行動や助言	家族の生活行動（12）	○姉が受験前などに片づけていたこと。捨て方を真似した。○親がいつもしている掃除の仕方，整理整頓好きだから。○母が昔マスクを作っていたから，それを見せてもらった。○母や父が週末にたまに草を抜いて大変なところを見ていたから。○母が仕事から帰った時「疲れた」と言っていて，母がやらず自分がやれば母はやらなくて済むと思った。○祖母が雨の日に湿った苔で滑って足を怪我していた。等	24 (26.1)	家族の生活行動（8）	○親が家で掃除をするときに，物をいったんすべて出してから一つずつどこに置くかを考えていた。○親が家事を仕事帰りなのに頑張っていた。○母のいつもの方法。○母が料理をしている姿。○両親も草を抜いて大変そうにしていたのもたくさん見ていた。○母が作っている様子を思い出しながら作った。○母のカレー作り，圧力鍋，食材の切り方。○母の不機嫌そうな顔。等	23 (24.0)
	家族の助言（14）	○姉の引っ越しの時どこに何を置くか聞いていたから。○いつも洗っているときに何を使っているか母に聞いた。○親に注意されていて少しは意識をもっていたから。○家族がぼろっと言ったことや家族に聞いたこと。○家族で健康診断について話したこと（祖母に健康診断に行くように家族が言っていた）。○家族の助言やアドバイス○母から教えてもらった赤ちゃんの様子。○リビングで課題や勉強をしていたら親に部屋でやりなさいと言われ，自分の部屋で勉強できる環境でないと気付いたから。等		家族の助言（15）	○家族に聞いたりしたことが助けとなった。家族がしている様子を参考にした。○母もピザを作っていること。母にアドバイスをもらった。○姉が調いていてあざだらけだったところに集点をあて，マットをカットするのは祖父と協力してやった。○みんなの意見を聞いて，それぞれが必要なものをとりやすいところに置くといいと思った。○家の中のどこが危ないのか。ほこりの空気への飛沫の様子，始める前に家族で話し合って，合意してからやった。家族の中で声かけをして忘れないようにすること。一緒に取り組むことで自然と実行できる。等	
家庭科の授業で学んだこと	小学校　家庭科の学び（3）	○小学校の家庭科の学習○夏と冬の快適さの学習○ナップザックを作ったこと。	12 (13.0)	小学校　家庭科の学び（2）	○家庭科の調理実習で習った簡単にできるもの（野菜嫌いを克服するために小さく切ったりなどのこと）。○じゃがいもを炊飯器に入れて火を通すこと。栄養バランスや料理の作り方，献立の立て方，配膳方法，具材の切り方を学んだこと。	24 (25.0)
	中学校　家庭科の学び（7）	○授業で住宅について学んだこと。○家庭科の授業で家の役割を習ったこと。○家庭科で習った家の危険な場所の例を見た。○7年生のころに6つの食品群について習い，興味をもった&8年生の期末試験に向けた勉強をしているときに6つの食品群について学びを深めたこと。○7年の時にした「6つの食品群」を参考にして作った。等		中学校　家庭科の学び（16）	○7年の調理実習のときに学んだ6つの食品群，料理の技能が役立った。○周りに困っている人がいたので，どうすればいいのか考え自分がやってみて，その大変さを味わうことを生かした。（高齢者疑似体験）○家の中に危険があるという授業で，どのようにしたら過ごしやすい空間になるのか考えた。○家の役割や効果を習った。安全で快適な住まいについての考え方を学んだ。等	
	家庭科の学び（2）	○家庭科の教科書○これまでの家庭科で学んだこと。		家庭科の学び（6）	○ミシンの使い方，まち針をさすとか，チャコペンで印をつけるとかの技能。○家庭科の教科書○家庭科の調理実習でやったことを役立てた。等	
インターネットやテレビからの情報	インターネット（16）	○「暗記カード・収納」でネットで調べまくったらワイヤーラックでの収納が見つかったのでその方法を採用した。○YouTubeなどの収納上手な人の動画で，物をどこに置くべきかを教わってきれいにした。○YouTubeのCMで棚があったので，これで道が作れると思った。○YouTubeの人がゴミ箱を買っていて，すごい！と思ったからごみ箱を買った。○インターネットで「勉強机　集中　配置」などと調べて，他人の意見を参考にした。○皿洗いをすると自主性があがるというサイトを見たから。○たこ足配線についてのHPでどのように防げるのかを調べた。等	22 (23.9)	インターネット（9）	○YouTubeでブックカバーについてみてみた。○単語帳がたくさんあり，それをなくせばきれいになると思い，よりよい収納をネットで調べた。○物をしまうために，箱を作り，ポーチみたいなものを作った。その際に，ポーチのつくり方などをネットで調べた。○冷蔵庫の中でも冷たいところ，次に冷たいところがあると思いそのことについてネットで調べた。○情報をインターネットで探すときに複数のサイトから探す。「健康診断が重要だ」と言っているサイト以外も見てみる。○インターネットでピザの作り方を調べた。○種類はそんなに知らなかったので，ネットで調べて性質をまとめることで最も良いものを選んだ。等	10 (10.4)
	テレビ（6）	○テレビの断捨離企画。要らないけど残ってしまっている服などを捨てるためなどテレビで芸能人さんがしていたから。○テレビの整理するやつ（ゴミ屋敷を整理している番組）。○テレビを見ているときにプロの人がうまく片付けていたから。○3分間クッキング。等		テレビ（1）	ニュースでコロナウイルス情報がよく出ていることからしようと考え，方法は，母のしていたことを発展させてみた。	
自分自身のこれまでの生活経験	生活の中で課題発見の経験（5）	○雨の日の地面や絞り切れていない雑巾で拭いた後の学校の廊下など。○いざ宿題をしようとした時，集中できなくて困ったこと。○生活しているうえで不便だなと気付いたことを意識的に覚えておくこと。○インスタント食品がおいしくなかったので作ればいいと思った。	13 (14.1)	経験で習得した技能（11）	○LEDをつけたりブックカバーをつけたり，自分で考えた。○普段「こうだったらいいな」と考えたことや経験したことをもとに配置を決めた。○たまに料理を手伝っていた時の経験。○今までに自分でも草を抜いたことは何度もあった。○掃除とエコをつなげて考え，雑巾を古くなったバスタオルを切ったものにした。日頃犬のトイレ掃除係でそれを室内の掃除に役立てた。等	15 (15.6)
	困難な状況を経験したこと（2）	○西日本豪雨災害での体験○西日本豪雨災害のときに土砂崩れが起こったから→一瞬，パニックになったから，いざという時，どうするのか知っておかないと逃げ遅れてしまうと考えた。		困難な状況を経験したこと（2）	○姉がパニックになったことがあっておさえるのが大変だったので，どこに逃げるのか知ることも大事だけど，家族をそこまで誘導することも大切なことに気づいた。○西日本豪雨の時の体験，避難場所について考えるときの経験が活かされた。等	
	より豊かな生活のため（1）	○自分の趣味につなげたいから。		生活の中で気付いたこと（2）	○早起きをしたら眠くなってしまうから。○レイアウトは自分で，自分の部屋に対するイメージに合うものを置いた。	
	生活の中でよいモデルに出会った経験（5）	○自分の好きなお店のピザを参考に。○友達宅の階段に滑り止めがあったこと。○被服室で棚に布をかけているのでブックカバーにのれんをかければよいと思いついた。○普段，車や電車，自転車など移動しているときに見ているものがヒントになったと思う。○ニトリに行き，生活用品を見ていて，この課題を思い出し家の整理整頓をしようと思った。				
状況を見ながら自身で考えた解決方法	課題である状況にぶつかった（12）	○新しいタオルを取り出そうとしたら全然見つからなくて，棚の一番奥にあり，整理したいと思ったから。○兄の棚の汚さを改善したかった。○コロナウイルスが出てきて，消毒の大切さを知ったこと。○洗濯物をたたむ時に，より早くできないかと思った。自分のものだけが種類だけかの対比をした。○掃除と草取りについては，見るに堪えないほど汚くなっていてだめだと本能的に思った。○机上に物をごちゃごちゃ置くと集中できないから。○休校期間中に昼食を自分が作って，バランスを考えた食生活ができているか疑問に思ったから。等	15 (16.3)	人と物さらに環境との関係でとらえた解決（10）	○家族が安全に過ごせるようにマスクづくりを思い立った。布マスクは繰り返し使えるので環境にいいと考えた。○使うものと使わないものが混在していたので，分けて，いるものと使うものだけを身の回りに置こうと思った。○その人の背に合わせて取りやすいところに置き，けがを防ぐ。整理整頓する力。使う人の特徴を見て，置く場所を考えた。○棚に整理するときは，使うものは上のとりやすいところにする。○住みやすい家づくりというテーマから居心地のいい空間をつくるにはどうしたらいいか考えた。等	13 (13.5)
	解決手段を自分で考案（3）	○五感で確かめること。○どのようにすれば，一日眠くならないような早起きができるのか考えた。等		物理的な解決（3）	○容器自体を掃除することや除菌シートで拭くことを考えた。○スマホの画面をウェッティで拭いて，自然乾燥させたら滑らかに動くが，ウェッティで拭いた後ティッシュで拭いたときはあまり滑らなくなること。○物の片づけ方→入れ方を変えるなど。	
家庭科以外の教科で学んだこと	総合的な学習の時間（2）	○職場体験でつくったものを家でもやってみたいと思った。○去年のSDGsの研究で学んだことを生かそうと考えた。	3 (3.3)	技術（2）	○技術で8年のころナスを育てたからその時に習ったようにした。たとえば葉が全体にたくさんあると栄養が偏ってしまうなど。○技術での電気コードについての学習を役立てた。	9 (9.4)
	学年通信のみんなの声から（1）	○学校の生活記録の紹介で，みんなの勉強に対する言葉がたくさん載っており，自分は勉強に対してどのように向き合っているかを考えた。		総合的な学習の時間（4）	○去年の論文発表のときの洗剤についてのこと。○職場体験学習でやった経験を役立てた。○小学校のとき総合的な学習で，地域を安全にするための学習で班活動をしたのですが，私たちの班は地域を見回って，地図に危険だなと思ったところをマークし災害時のポイントみたいなものをパンフレットにして地域に配ったこと。	
				保健体育（2）	○保健で心の休息の効果的な方法を学んだ。○もし運動をしていなかったらどうなるか，家庭科と体育を合わせて考えた。	
				教科全体（1）	○各教科で学んだことを生かした。	
文献や資料などから調べた情報	本や自治体からの資料（2）	○防災のハザードマップを見た。○空間をうまく使う方法という本を読んだことがヒントに。	2 (2.2)	地方の自治体からの配布資料（1）	○ハザードマップが市から配布されたので，その資料で家の周りを調べた。	1(1.0)
その他	実行してない（1）	○覚えてない。	1 (1.1)	解決をあきらめた（1）	○時にはあきらめることも肝心だ。	1(1.0)

のために」「どのようにして」解決した取り組みかを生徒に発表させ意見交流させた。交流後の振り返りとして生徒が書いた自由記述をKJ法により分類し，表６に示す。表札１は最終段階の４段階目，表札２は３段階目，表札３は２段階目の表札を示す。自由記述は表札１に示す５つに大別された。以下，表中の表札１は【　】，表札２は「　」，表札３は〔　〕で示す。

この表から最もラベルが多かったのは，【自分のことにとどまらず家族や誰かのために課題解決していきたい】（20件）であり，表札３の〔自分を含め周囲の人が幸せになれるようなことをしたい〕という記述のように，交流することで，「家族のため」「人のために」という記述が多く見られた。また，表札２の「将来のことも考え，家族と協力することも大事だ」という点に気づいた記述も見られた。これらの記述は，自己へのケアから，他者へのケアへとその領域が広がっていると読み取れる。

二番目に多かったのが，【仲間の実践を自分の実践に照らし合わせて考えた】（19件）であった。表札２の「仲間の取り組みに刺激を受け，もっと取り組みたい」と考えた生徒と，「取り組みの差を感じこれではいけない」と反省した生徒がいた。中には，「仲間の取り組みは独自性があった」と考えた生徒もいたが，振り返りの自由記述の上では，新たな発見などは記述されていなかった。次いで多かったのが，【新たな発想や見方･考え方，視点を課題解決に生かしたい】（17件）であった。仲間の実践に〔面白さと興味深さを感じ〕，表札２にあるように，「仲間との交流を通して自分にない発想や視点，見方・考え方との出会いがあり，自分の生活の新たな課題を発見することにつながった」という内容の記述が多かった。さらに，生活の中に〔大きな課題や不便さがない場合は，快適や防災の視点〕で考えればよいと気づいた生徒がおり，まさに視点が増えた記述であった。視野の広がりとして「家庭科の見方・考え方に加えて他教科の学びとも関連付けて，生活の課題を発見して実践的に取り組みたい」と，学校での学びを家庭科のみならず他教科へ広げようとしていた記述もみられた。さらに続いて【問題解決の道筋を大切にし，生活状況に応じて考えていく必要がある】（10件）であった。表札２の「生活の課題解決の方法は様々であるが共通点もある。状況に応じて考えていく必要がある。」のように，仲間の発表の解決方法に着目して「生活の中には改善できる様々な課題があるので，気付いたら解決のための計画を立て，その過程を大切に取り組みたい」というように，取り組み方についての記述もあった。

一方で，【実践してよかった】（４件）のように，「経験は大切だ」「達成感があり，工夫もできた」という肯定的な記述もあった。ただ，仲間の交流についての新たな発見の記述は見られなかった。全体的には，お互いに実践したことを仲間に伝え，意見交流をすることで，改めてこれまでになかった視点で振り返ることができ，本プロジェクトに対して価値を見出し，今後も取り組みたいと考えた記述が多くみられた。

５．総合考察

本研究は，家庭科においてケアリング教育を実践する際の教師による支援方法について検討することを目的とする。その教育を実践するにあたり，学習前に生徒はどのようにケア行為を行っているのかを把握するため，生徒の生活課題を解決する本プロジェクトを実施し，生徒が誰のため（ケアの対象）に，何をどのように解決するか（ケアリングの方法）の実状を分析した。本プロジェクトはコロナ禍の休校中の取り組みであったため，各生徒による家庭での活動に委ねられた活動となった。その中で生徒が行った生活課題解決をケアリングの視点からみると，生徒のケアリングを育むためには，家庭科の授業において次のような教師による支援が必要であることが示唆された。

(1) ケアリングの＜実践＞を導く支援の必要性

表５から，生徒は生活課題を設定するにあたり「ヒントになったこと」として，インターネットやテレビなどの情報を通じて＜モデリング＞を行っている生徒が多かった。しかし，最終的な生活課題の設定および実行計画の立案に　＜役立ったこと＞としては，「家庭科の授業での学び」「家族の生活行動や助言など」が多く記載されていた。家庭科の学びの記述内容で特に多かったのは，教師と関わり実体験を伴う調理実習や衣服実習，また介護福祉士を招いて高齢者疑似体験をした内容であった。このことから，生活課題解決の行動を実際に具体的に生起させるには，インターネットなどの一方向の＜モデリング＞だけではケア行為＜実践＞の要因にはなりにくく，ケアリングの前提となる双方向からの＜対話＞が含まれる家族の助言や家庭科授業での教師等との関わりが要因になり易いことが示唆された。つまり，＜モデリング＞に加えて＜対話＞が，誰かのためのケア行為＜実践＞の設定と実行計画の深まりに導くと推察される。

本プロジェクトを実践した多くの生徒は，家庭科においてケアリング教育を履修する前に＜モデリング＞と＜対話＞の方法を併用してケア行為＜実践＞を行っていたといえる。しかし，＜対話＞を行うことなく一

方向の＜モデリング＞のみで生活課題解決を行った生徒も見られた。この場合，ノディングズのいう，人と人とがケアしたりケアされたりする営みの同心円の中心に「自己へのケアリング」を位置づけるだけにとどまり，自分を取り巻く身近な他者が，自分に関わる様々なケアをしていることに気付き，自分もケアすることができる存在であることに気付く機会を逸しているといえる。

教師は生徒のケアリング経験の実態を踏まえた上で，家庭科授業において，「家庭での生徒の生活実態」と「家庭科の学び」を往還させながら，＜モデリング＞と＜対話＞を繰り返し取り入れて学ぶ機会を設定することによって，ケアの対象・内容・方法の拡大，さらには生徒のケア行為＜実践＞を導くことに寄与できるのではないかと考えられる。

(2) 生徒間での＜対話＞を取り入れた学習方法の必要性

本プロジェクト終了後に家庭科授業において行った生徒間での交流後の振り返り記述を見ると，【自分のことにとどまらず家族や誰かのために課題解決していきたい】（表５）と視点が広がり，生徒自身が世界を捉えなおす記述が多くみられた。生徒間での交流を通して，生徒がケアの対象を自分自身のことにとどまらず，家族やその他の対象に拡大していると理解される。これは，ノディングズ（1997）のいう，誰かのためを思う「動機付けの転移」が生起していると推察される。

生徒間での交流について，福田・後藤（2012）が「他者の考え方ややり方から学ぶことを学習者自身が意識して，学習にのぞむ，あるいはそのための手立てを組み込むことで学習効果は一層高まる」と，問題解決の思考様式や学習方略を育てる効果的な指導法として，学びのリソースとしての他者の有効性を指摘している。しかしながら，単に交流させるだけでは，その効果を生徒にゆだねているに過ぎない。同じ事象に遭遇しても生徒によって＜モデリング＞の有無が生じるであろうし，家庭での＜対話＞に個人差が生じる可能性が考えられる。＜モデリング＞の対象を教師が提示することには限界がある。よって，生徒間で他生徒の課題解決事例を交流する活動は，教師が課題解決の内容を授業で紹介する以上に，生徒のケアリングを高め，課題解決能力を高めることにつながると推察される。その際には，各生徒の課題解決に用いた＜モデリング＞や＜対話＞などの４つの方法を具体的に提示しながら交流することが有効であると考えられる。

他生徒の実践から得られた新しい視点の獲得は，生徒にとって自己から他者へというケアリングを育む機会となり，新たな質のよい課題設定や適切な解決方法の選択に導くと期待される。これは課題解決のサイクルにケアリングの視点が導入されることで可能になると考えられる。

＜モデリング＞と＜対話＞を併用しての＜実践＞は各生徒が自身の日常生活において可能であろう。しかし，他生徒と共に共有できる機会は，家庭科の授業において実践が可能となる。今後は家庭科授業において，いかに双方向の＜対話＞を意図的に取り入れるかを検討することが必要であると考える。

(3) ＜確証＞を重視した学習方法の必要性

生活課題解決後に，自分が行った生活課題の解決は，どのような過程を経て実践できたのか，また家族や自分以外の他者はそれをどう受けとめたのか，あるいは生活はどのように改善されたのかなどを振り返ることによって，人は自分が誰かをケアし，さらにそのケアが誰かのためになっていることを＜確証＞し，それを実感することが次のケア行為へとつながると考えられる。

よって，＜確証＞の段階において，生徒自身の省察に加え，ケアリングの双方向からのつながりを意識させるように深めることが必要である。つまり，生徒が＜実践＞したことによる相手の変容を具体的に生徒に伝え，ケアリングが生成された経験を意識化させる支援が重要である。そして，この＜確証＞は意図的に授業においてその機会を設ける必要があると考える。

６．今後の課題

本プロジェクトを実践した家庭科授業において，生徒が自己へのケアでとどまらず，家族，地域社会そして広くは環境へとケアリングの対象を広げ，その広い視野で，自分自身の生活を見つめ直し，ケアリングを実感することができる，ケアリングの４つの方法を意識した教師の支援の可能性が示唆された。

今後の課題としては，本研究で示唆された家庭科における教師の支援を，生徒が自分の置かれた状況の中でさらなるケアリングを生起できるよう具体化し，家庭科におけるケアリング教育に関する授業モデルを構築したいと考える。

【注】

1）ノディングズが提唱した学習の４つの方法（modeling）（dialogue）（practice）（confirmation）の日本語訳については多義的な訳語があるが，学校

教育の観点からこれらの日本語訳を検討したうえで，本稿では橋迫和之．池水佐千子．（2003）「教育におけるケアリングの意義と課題：ネル・ノディングズのケアリング理論を中心に」『宮崎大学教育文化学部紀要　教育科学』（10），73-89. に従った。

【引用文献】

藤井志保・伊藤圭子（2022）「中学校家庭科における生徒のケアリング生成過程の検討 － 高齢者との交流会を通して －」『日本教科教育学会誌』**44**(4), 43-53.

福田恵子・後藤真理（2012）「実践的推論を導入した問題解決学習の効果：ホームプロジェクトにおける学習法力の変化の観点から」『日本家庭科教育学会誌』**55**(3), 150-161.

福田公子（2004）「生活実践と家庭科教育」, 福田公子．山下智恵子．林未和子（編）『生活実践と結ぶ家庭科教育の発展』大学教育出版，**19**.

広井良典（1997）『ケアを問い直す－〈深層の時間〉と高齢化社会』筑摩書房.

広井良典（2020）『人口減少社会のデザイン』東洋経済新報社.

伊藤葉子・鎌野育代（2009）「家庭科における幼児とのふれ合い体験での中学生の学び：ケアリング教育という視点からの考察」『日本教科教育学会誌』**32**(1), 41-50.

貴志倫子（2007）「ケアリング教育の視点からみた家庭科教育－高等学校「家庭」における授業プログラムの作成の課題－」『福岡教育大学紀要』**56**(5), 163-172.

ネル・ノディングズ（1997）立山善康．林泰成（訳）『ケアリング倫理と道徳の教育：女性の観点から』晃洋書房．（Original work published1971）

佐伯胖（2017）『子どもがケアする世界をケアする』ミネルバ書房.